

2025年7月21日

## 愛労連第72回定期大会議長あいさつ

愛労連 議長 西尾 美沙子

愛労連72回定期大会にご参加されたみなさん、おはようございます。

みなさん、日夜、賃金労働条件の改善と国民的要求の諸課の改善に全力で奮闘されておられることに心より敬意を申し上げます。

来賓の皆様、ご臨席いただきありがとうございます。日頃よりご支援を賜り、感謝申し上げます。また大村知事、国会議員、労働組合はじめ多くのみなさまからメッセージをいただいています。

昨日は参議院選挙の投票日でした。参議院でも与党過半数割れを求める国民の審判が下されました。各党公約の政策ワードは、「消費税」、「物価高・給付」、「賃金」でしたが、選挙後半戦から「外国人」に関する投稿が急増していきました。参政党が訴えた「日本人ファースト」への賛否の投稿が増加しました。残念なのが、戦後・被爆80年、日本の安全について核武装が安上がりだとする候補者がいて、神谷代表は公務員を対象に「極端な思想の人たちは辞めてもらわないといけない。これを洗い出すスパイ防止法を成立したい」と述べています。私たち労働組合は先の戦争の痛苦の経験から差別・排外主義とたたかい、憲法を守り抜きます。憲法は、一人ひとりの思想や信条の自由の保障（憲法19条）、個人の尊重（尊厳）、幸福追求権・公共の福祉について（憲法13条）、法の下での平等（人種、心情、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない（憲法14条）のように、憲法は私たちの暮らしを照らしています。憲法99条は天皇と全ての公務員が憲法を尊重し擁護する義務があることについて規定をしています。憲法規定を守れない政治家には退場を迫りましょう。私たちは憲法をルーツに、仲間と対話し学びあい、知恵と力をつけていくことが必要です。

私の祖父は、戦死者です。父が6歳、叔母が4歳の時、戦地で亡くなりました。戦地からの手紙には、子を思う父親の気持ち、検閲があるからなのではないでしょうか、いつも元気に過ごしている旨が書かれていました。80年前の太平洋戦争は日本は被害者でもあり加害者でもあり、再び戦争をしないことを誓いました。被爆80年を前に、被爆者のみなさんが、ノーベル平和賞を受賞しましたが、海外と日本の歓喜の温度差が違っていると被爆者の金本さんが話してみえました。唯一の戦争被爆国でありながら、核の傘に依存する日本政府の姿勢を変えるのは、私たち一人ひとりです。私自身も、被爆の実相を知り、労働組合の活動に傾倒してきた一人ですが、組合員の多くがそうでしょう。8月、戦後・被爆80年の行動がたくさんあります。平和を願う次世代の若者と対話し学びあい、戦争のない、核のない世界のために、その輪を広げ確かなものにしていきましょう。

私たちのくらしは、物価高で実質賃金が上がらないもとので、組合の中にもコンビニのお弁当を買うことが贅沢に思えるとか、パートナーは非正規労働者だが、私が先に死んでしまったらどうやって暮らしていくのかとても不安に思っている、奨学金返済を滞ってしまいブラックリストに載っていて、ローンが組めなくて教育費も心配で子どもを産み育てることが不安。年金が少なくても70歳を過ぎても働かなくてはならない。どの声も愛労連組合員の声で、賃金が安くて、教育費が高くて、社会保障が不十分な実態にあふれています。

みんなの声で、昨年約30年ぶりの賃上げ、人勤も引き上げ回答。25春闘は、大幅賃上げめざしのべ1569人がストライキで抗議、全国港湾は6年ぶりのストライキに立ち上がり、昨年の賃上げを維持させました。最低賃金1500円を政治課題に押し上げました。しかし医労連では診療報酬の引き下げが経営を圧迫、一時金の大幅カットが行われ、退職を加速させています。大幅賃上げ、中小企業支援、医療社会保障予算・教育予算増の実現へ、力をつくしていきましょう。

非正規公務員は3月末での雇い止め問題に苦しめられる中で、職場でも社会的にもたたかい、名古屋市子育て地域支援センターの採用枠を3倍に拡大させました。雇用の安定化、処遇差別の是正、短時間労働の正規化への道などの実現へ、がんばっていきましょう。

愛労連は今年、一昨年、昨年を上回る拡大数を実現しました。医労連は過去最高現勢の達成、年金者組合は昨年比純増、愛高教は3月期純増となりました。5万人愛労連をめざし、5万人対話で年間5千人の拡大をめざしましょう。

私たちにとっては平和があたりまえですが、ウクライナやガザなど戦争で今も命が奪われています。世界の平和のために、世界の労働者と団結してがんばっていきましょう。

ジェンダー平等の課題もまったなしです。今年また新たに単産で女性委員長、書記長が誕生すると聞いています。男女の賃金格差の是正をはじめ、選択的夫婦別姓などジェンダー平等の推進へがんばっていきましょう。

「おかしいと声を上げた人の声は決して消えない。その声はいつか誰かの力になる日がきっと来ます。」

愛労連は、労働者・国民の諸要求の実現へ、不断の努力を続けていきます愛労連運動の輪を大きく広げていきましょう。

今大会での闊達な発言で、議案を一層補強していただくことをお願いし、あいさつとします。ありがとうございました。

以 上